



大  
政  
官

召供高覽候也  
突危斯事件

外務省  
外務部  
外務部系議  
出記友

出記友



明治十年七月四日

大正十一年四月  
讓侯爵寄贈

414  
A 760

外務部  
第百一號

1159



414  
A 760

公第一五〇二號

在佛我海時代理公使公突尼斯事件之  
閣之報告書及差出書等別紙之通字進達  
及ヒカス也

外務省代理

明治十四年六月廿九日

外務省輔士野景範

太政大臣三條實美殿

突尼斯國事件

讀者ハ本号附屬ノ地圖ニ就テ突國ノ地理ト佛兵進向  
ノ線路トヲ詳知スルヲ得ヘシ抑前回報告ノ後佛國ヨ  
リ出張ノ兵員ハ追々増加シ突國內外ニ在ル者總計殆  
ト四万人ノ多キニ至リ教艘ノ軍艦ハ沿海ニ来往碇泊  
シ警備ヲ嚴ニス諸將所率ノ軍隊各其方面ヲ分シテ教  
道ヨリ並ニ進ミ徐々グルミ此地方ヲ踰ヘキユニス本國  
ニ入りケレバデアノ二大市府ヲ台據シ又北方ニ在ルビ  
港ニ上陸マナシニ二府ニ入り漸ク將ニ首府ニ逼  
ラントスルノ勢アリ此間處々土兵ニ遇ヒ教國ノ小戦  
ヲ開キ若干ノ死傷ナキニ非レトモ佛兵向フトコロ多  
クハ土民乱ヲ避ケ遁逃シ或ハ佛將ノ下ニ帰降シ殆ト

無人ノ境ニアルカ如シ但連日淫雨水泥路ヲ没シ或ハ山路險峻ナルニ依リ進軍ノ勞必カラス佛兵ハ急捷ヲ事トセス鄭重嚴肅專ラ勢威ヲ示シ敵ヲシテ自ラ畏縮シ抵抗ノ意ヲ絶タシメント欲スル者ノ如シ故ニ進軍ノ路次大ニ日子ヲ費シ容易ニ城下ノ盟ヲ為スノ結局ニ到ラサルナリ

突國陸軍卿ノ一隊ハ依然トシテクルミル部内ニ駐屯シ未タ佛兵ト相向對セス又國公ノ策ハ佛兵ノ前路ニ當リ或ハ一戰ノ苦ヲ避クヘカラサルヲ患ヘ預メ其兵ヲ率<sup>レ</sup>テクルミル地方ヲ退キタリトノ報知アレバ現今何地ニ在ルヤ未タ確知ス可カラス

佛突兩國ノ爭議ハ帝ニ勇將強卒カ劍光砲声ヲ以テ輸贏ヲ決セントスルノミナラス同時ニ老練多辯ナル外

交者流ノ筆鋒ヲ振フテ全勝ヲ机席ノ間ニ占メントスル者ノ如シ佛國出兵ノ前ヨリ在突國佛公使ト同國公トノ間ニ於テ六書ヲ往復セシテ數回ナルヲ知ラス佛國ヨリハ常ニ彼ノ亞及耳人ヲ傷害シタルクルミル土人ヲ懲罰スルハ突國公ノ力能ク之ヲ制取スルニ足ラサルヲ以テ万ニ止ムヲ得サルニ出テ故ニ將來之カ為メ起ラントスル損害ハ一切國公ノ責ニ歸スハ当然トリトノ論ヲ主張シ又國公ヨリハ兩國境上土民ノ紛擾ハ互相ノ爭論ニシテ彼我共ニ全ク是ニシテ非ナラサル者アラス然而<sup>レ</sup>クルミル土民ハ突政府既ニ之ヲ罰シ在リ鎮定ニ至レリ佛國尚自ラ好テ騷乱ヲ覓ム其損号ハ之ヲ佛國ノ責ニ歸セスシメ誰ツヤ又兩國和文ヲ保持スルノ日ニ當リ佛兵俄ニ突國ヲ侵シ其市府ヲ石據スルハ

万国公法ノ主義ニ悖戾セリトノ旨ヲ反覆弁論セリ茲  
ニ前回報告以後兩國ノ間ニ往後セシ文書最要ノ部ヲ  
畧記ス

四月廿三日突国公ヨリ佛代理公使ニ与フ

第一書

佛政府ハ平和ヲ主トスルノ旨ヲ明言シ我國民ノ寧靜  
ヲ維持スヘキ方法ヲ示諭セラレタルハ我輩深ク謝ス  
ル所ナリ然レ其方畧ヲ採用実施スヘカラサル者ハ是  
将来ノ結果ハ今日ノ時期ニ違レ後患ヲ殘サシカトノ  
恐レアレハナリ佛政府ヨリノ答言ハ皆我輩ニ抗敵ノ  
意ニ外ナラス我輩ハ愈國內ノ寧安ヲ保護スルカ為メ  
相当ノ處置ヲ爲サレ得ス若シ佛兵我國ニ於テ強  
擾ノ端ヲ完キ其亂全國ニ波及シ終ニ我輩ノ力以テ之

ヲ鎮定スルテ終ハサルニ至ラハ則其責ヲ歸ス  
ヘキ者ハ獨リ佛国アルノミ云々

同上第二書

我兵ハ<sup>「</sup>クル<sup>」</sup>部ニ入レリ抑モ我輩カ兵ヲ出シタ  
ル目的ハ只有罪ヲ罰シ衆庶ヲ鎮撫セントスル  
ニ在ルノミ佛政府ハ我輩ノ措置ヲ信認シ佛將  
ノ我總督ニ接スルニ親睦ヲ以テセラレシトテ  
願フ我輩カ兩國ノ為メ有益ノ收局ニ至ラン  
テ切望スル<sup>「</sup>クル<sup>」</sup>土民既ニ全ク我命ニ服從  
スルヲ以テ証スヘシ近日亞及耳人又<sup>「</sup>クル<sup>」</sup>境內  
ニ入り暴動シタレ<sup>「</sup>クル<sup>」</sup>我國人ニハ之ニ抗敵シタ  
ル者ナシ佛政府亦亞及耳人ニ復タ必ス手痛ヲ  
完ク勿レトノ令ヲ与ヘラレン<sup>「</sup>クル<sup>」</sup>願フ我輩ハ

只兩國ノ爲メニ和親平安ヲ希望スルノミ云々

四月六日突國公ヨリ佛代理公使ニ与テ

第三書

ケル縣令ヨリ昨日佛兵ハ突國境ヲ踰ヘタリトノ  
報アリ<sup>ベキ</sup>縣令ヨリモ亦同一ノ急報アリ我輩專  
ラ和交ヲ主トスルノ時ニ於テ佛政府ヨリハ一  
言ノ預告ナリ突然其兵ヲ我國ニ入レクルハ万  
國公法ニ悖レリ故ニ我輩ハ公法ノ通義ニ違ヒ  
佛政府ノ処置ニ抵抗セサルヲ得ス我輩ト土帝  
トノ爲メ自護ノ方法ヲ施サ、ルヘカラサル理  
由ハ己ニ諸國政府ニ通知セリ云々

四月廿六日佛代理公使ヨリノ答書

佛兵突國ノ西邊ニ入りシトニ付貴翰ヲ接收セ

リ殿下ハ我兵一言ノ預報ナリ兩國和交ノ時ニ  
於テ突然進入シ万国公法ニ違背セリト思考セ  
ラル、ハ突ニ遺憾ニ堪ヘス請フ其理由ヲ説カ  
シ夫レ我出兵ノ事ハ初テ四月七日ノ書翰ヲス  
テ報知シ全月九日書翰ヲ以テ殿下ヨリノ要求  
ハ之ヲ諾シ難シ出征ノ籌略已ニ決定ニ付今日  
其議ヲ変スルヲ能ハストノ旨ヲ答ヘ同月十五  
日ニ至リ殿下ノ兵ヲ佛兵ニ合併シ国内鎮定ニ  
後事セシメントノ望意ハ殿下之ヲ拒絕セラレ  
タレ<sup>レ</sup>我政府ハ独リ卒安ノ目的ヲ以テ充分ノ  
處置ヲ爲サ、ルヘカラストノ意ヲ告ケ又同月  
十七日ノ書翰ヲ以テ突國入<sup>タ</sup>バ<sup>カ</sup>島ニ於テ我國  
旗ヲ銃撃シタルニ付我政府ハ当然ノ處分ヲ爲

スヘシトノ事ヲ述ヘ其後殿下ハ一切ノ責任ヲ  
負ハサルヘシト茂言セラレタレハ我國人及他  
國人ニシテ些少ノ損害ヲモ受ル者アリハ其責  
ハ皆殿下ト殿下ノ首相トニ在リトノ旨同月二  
十日ノ書翰ヲ以テ回答シ是ニ由テ殿下カ一言  
ノ預報ナシトノ言ハ誤謬ナルトヲ云スヘシ夫  
ノ万国公法ニ悖ルトノ議ノ若キハ曾テ殿下ニ  
呈シタル四月六日付我外務卿ノ訓令中ニ於テ  
其如何ヲ見ルヘシ抑貴國ヲ鎮定スルノ義務ハ  
獨リ殿下ニ歸スルハ勿論ナレバ若シ殿下ノ力  
不足ナレハ何時ヲ論セス我兵上陸シ殿下ヲ扶  
助スヘシ云々

五月三日英國公ヨリ佛代理公使ニ与ルノ書

教団ノ書翰ヲ以テ佛兵我國ニ入ルトヲ承諾シ難シト  
ノ旨ヲ繕述セシニ佛兵ハ我軍切望ノ意アルニ拘ラス  
我國要地ノ一ナル全市ヲ占據セリ此事タルヤ万国公  
法ノ通義ニ悖リタル者ナレハ我軍之ニ異論ヲ容レサ  
ルヲ得ヌ加之<sup>「ミルト」</sup>縣令ヨリ昨日佛軍艦港口ニ赤リ市  
府堡寨ヲ占據セシ<sup>「ミルト」</sup>強請セリトノ報知アリ我軍固  
ヨリ佛國ニ對シ和交ヲ希望スルカ為メ曰縣令ハ毫モ  
抗敵ノ色ヲ顯ハス<sup>「ミルト」</sup>能ハサレハ佛兵間ニ業シテ直ニ  
市府ヲ占據シ其國旗ヲ掲ケタリ兩國ノ和交未タ絶タ  
サルノ前如此暴行ハ万国公法ニ違背セリ我軍今生深  
ク親信セル外ノ佛國ヨリ無礼ノ待遇ヲ被ルハ實ニ遺  
憾ニ堪ヘス云々

佛国カ出兵ノ事ハ歐洲一般格別異議ヲ容レス  
当然タルヲ黙許セリ唯伊国ニ於テハ異論ノ一党アリ  
其政府ノ外交政略ヲ非ナリトシ一タニ内閣諸員ヲ黜  
ケントシタレ氏代テ新政府ヲ組成スルニ足ルヘキ人材  
ナキニ依リ<sup>カイヤ</sup>カイヤ氏党復其職ヲ継ケリ然氏於議院ハ  
佛国ノ處置正否ヲ疑問スル者續々絶ヘス首相ハ佛  
政府カ和親ノ本局タルヲ信用シ勉メテ前議ヲ執リ  
反復答弁スルヲ以テ異論党稍其勢ヲ減スルニ至レ  
リ又英國ニテモ議院ニテ佛政府ノ舉動當否ヲ  
疑問シ一朝戰ヲ開キ突国中ノ騷乱ヲ起サハ英政  
府ハ如何ノ政畧ニ出ツヘシヤトノ一ヲ質問シ又  
土国ヨリ兵艦ヲ突国海ニ出サハ佛兵之ト共ニ戦  
フヘシトノ風説真偽如何ヲ問試タル者三四名アリタレハ

首相兼外務卿等ハ佛政府ヨリハ決シテ動乱ヲ  
起サハルヘシトノ旨屢々我政府ニ通告アリト  
ノ事ヲ答ヘタリ近日英伊西班牙葡萄牙諸国ヨ  
リハ突国在苗ノ自国人保護トシテ各其軍艦一  
二艘ツ、ヲ突国海ニ出セリ  
王政府ニ於テハ突国ハ其半属ノ国体ニシテ同  
国ノ事ハ王帝ノ權内ニ在リトノ旨ヲ歐洲諸国  
ニ照會スルヲ以テ至當ト考定シ四月下旬諸国  
在苗ノ大使ヲシテ一書ヲ其任国政府ニ出サシ  
メタリ其書中突国公ハ王帝ヨリ命スル所タリ  
現ニ当国公ヲ封スルノ書ハ王廷ヨリ与ヘタル  
一各國皆之ヲ認可セリ云々ノ文字アリタレハ  
佛政府之カ答弁ヲ為シテ云ク突国公ヲ封スル



ノ書アルハ佛政府曾テ之ヲ認メス此書中ニ国  
公ハ他国ト條約締結ノ權ヲ有セストアリ然レ英國  
ハ千八百七十五年伊国ハ千八百七十八年同国  
公ト通商條約ヲ結ビタルニ非スヤ又書中ニ若シ  
土国外冠アラハ国公ハ若干ノ兵ヲ出スヘシトアリ  
然ルニエ露交戦ノ時エ帝ヨリ五千ノ援兵ヲ同  
国公ニ要求セシテ數回ナルニ国公ハ曾テ援兵  
ヲ出サ、リシニ非スヤ是ヲ以テ觀レハ所罷封  
公ノ書ナル者ハ有名無実ナリ同国公ヨリエ廷  
ニ納ルヘキ貢租ハ久ク絶ヘタリ近年エ国軍艦  
ノゴレダニ入港ノ時突国ヨリノ待遇ハ他国軍艦  
ニ於ケルニ異ナラス当国公ハエ帝ヨリ命セラ  
レタルニ非スニク国君ノ主權ヲ有セリト云ヘリ

土廷ニ於テケレチンパシヤヲ斥理大臣トシテ突国ニ  
派遣シ佛國トノ争論ヲ處理セシメントノ議アリ  
タレ元來佛國ハ東方事件ニ関シ深ク土廷  
ノ為メ周旋スル所マルヲ以テ土政府ニ於テハ  
恐ラクハ辨理大臣ノ派出ハ佛國ノ好意ヲ害ス  
ルヲアラシカト顧慮シ其友交ヲ全センカ為メ  
大臣ヲ派遣スルノ議ヲ止メタリ  
土政府ヨリノ照會ハ佛國ヲ除クノ外一國トシ  
テ回答ヲ贈リタル者ナレハ五月三日ニ至リ  
復タ土外務卿ヨリ左ノ訓令ヲ諸國在留大使ニ  
與ヘタリ  
突國現今ノ形況ト我政府ノ意見トハ已ニ前日  
來教回通報セシ如シ亞及耳境上土民ノ間ニ細

少ノ紛議ヲ起シ日ナラスニテ突政府之ヲ鎮定  
シタルニ佛國ヨリ兵ヲ出シタルハ我輩最愕然  
ニ堪ヘス近日突國公ヨリノ書翰中ニ佛兵ハ已  
ニ突國內數個ノ堡塞ヲ占據シ佛政府カ和親ヲ  
希望ストノ明言アルニ拘ラス軍畧ハ實ニ急速  
堅固ニシテ今ヤ殆ト突國ヲ領取スルカ或ハ占  
據スルカ否ラサレハ突國ヲシテ其保護ヲ仰カ  
シメント欲スル者ノ如シ此急殆ナル形勢ニ依  
リ國公及國民等土帝ヨリ保護ヲ與ヘラレシ  
ヲ請フト云ヘリ於是我政府ハ臣民屬國ニ對ス  
ルノ権理義務アルカ為メ黙止レ難ク過日伯林  
條約連印ノ諸大國ニ依頼スルニ佛政府カ満足  
スヘキ方法ヲ施行アリタレトノヲ以テセシ

ニ未タ其回答ヲ得ス諸政府ノ意見如何ナル  
ハ固ヨリ之ヲ知ルヘカラス我政府ハ諸國ト共  
ニ平和ヲ望ムノ念切ニシテ且本件ハ或ハ東方  
事件ニモ關係波及スルヲアラシムヲ恐レ實ニ痛  
憂ニ堪ヘス諸政府ニ於テ我言ヲ聽カレシト固  
ヨリ疑ヲ容レス諸政府ノ厚意以テ佛國ヲシテ  
滿意セシムヘキ結果ヲ得ルノ方法ヲ周旋幹理  
セラレシト亦深ク信スル所ナリ前文ノ主旨ヲ  
貴官任國外務卿ニ説明セラレヨ云々  
其後土國ヨリ軍艦ヲ突國ニ派遣セントスルノ  
意アリトノ風説世上ニ流傳シタレハ五月七日  
在土佛大使ヨリ左ノ覺書ヲ土政府ニ出セリ  
佛國ハ目今突國ノ一部ト交戦中ニ付土國ヨリ

突國ニ軍人ヲ派出スルヲアラハ之ヲ戰黨ト看  
做スヘシ佛艦隊ニ令スルニ土艦隊カ突國海岸  
ニ往來セハ之ヲ防キ其兵ノ突國ニ上陸スルヲ  
抗拒スヘシトノ旨ヲ以テセントス

四月廿七日突國公ヨリ英外務卿ニ左ノ書翰ヲ  
贈レリ

佛國政府ハ我國ト我君主ナル土帝トノ名ヲ以  
テ拒辞セシニ拘ラス又我政府ハ紛争ヲ生セン  
トスル土民鎮定ノ實効ヲ顯シタルニモ拘ラス  
其兵ヲ我國ニ入レ獨リ「クルミル」部ノミナラス遠  
ニ隔絶シ毫モ關係ナキ土地ヲモ占據セリ我國  
ハ勉メテ自護ノ方法ヲ盡シタルモ彼更ニ之ヲ

顧ミス我國ハ勿論土政府ヘモ曾テ開戦ノ報ナ  
クシテ暴ニ大兵ヲ動シタルハ是レ万国公法ノ  
主義ニ悖ル者ト云フヘシ我輩平生親交ヲ渴望  
シ彼ノ利益ハ我輩勉メテ之ヲ増加セント欲ス  
ル所ノ強大ナル佛國ヨリ何故ニ如此キ待遇ヲ  
被ルヤ解スヘカラス最怪ハヘキハ佛公使ハ未  
タ我國トノ交際ヲ絶タス一昨日同公使ヨリ西  
國和交保存ノ間ハ國公ノ許可ヲ經サレハ佛兵  
ヲ上陸セシメ難シトノ言アル即是ナリ故ニ我  
同盟ノ英國女皇陛下ト英政府トニ此顛末ヲ報  
セサルヲ得ス願クハ此紛議ヲシテ和平ノ中裁  
ニ歸セシメンヲ又願クハ諸大國カ曾テ我國  
ト結約センヲ紀念シ我輩カ常ニ公正ノ心

以テ在戎歐人ヲ過スルノ点ニ注意セラレシ  
ヲ抑是非曲直ヲ断スルハ我政府ニ在リト雖モ  
諸大國カ我國ト土帝トノ利益ニ関レ公明正大  
ナル考意アラシクテ希望ノ至ニ堪ヘス云々

五月四日ニ至リ突國公ヨリ復タ歐洲諸政府ニ  
贈ルノ電文如左

佛政府ノ出兵ハ万国公法ニ悖ルテ我輩ト我君  
主トハ推理ニ基テ自護ノ法ヲ尽シタルト等ハ  
既ニ閣下等ニ報告セシ如シ抑佛國ハ歐洲諸政  
府及我政府ニ明言スルニ其目的ハ只紛議ヲ生  
シタル「クルミル」ヲ罰スルニ過キストノ「テ」以テ  
シタルニ今ヤ前日ノ言ニ反シ佛兵ハ我「ゲ」市

ヲ占據シ尚「ベジア」ニ向テ進軍シ「タルカ」僅若ハ  
己ニ占據セラレ「當」ニ「クルミル」ノミナラス他ノ土  
民モ亦害ヲ被ル者少カラス「ビゼルト」ハ佛兵ノ營  
トナリ其國旗ヲ飄セリ今後騷擾底止スル所ヲ  
知ラス我輩ノ一身ト我全國トハ共ニ諸大國ト  
土帝トニ委ス從来永ク友誼ヲ存スル旧約國ト  
ルヲ以テ一切ノ患害ヲ除免スルヲ得ヘキ良策  
ヲ講畫セラレシ「テ」ヲ希望ス云々

概論スルニ本件ハ格別兵器ノ用ヲ為スノ機ニ  
達ハス專ラ外交上ノ談判ニ付シ結局ニ至ルヘ  
シ蓋シ佛政府ハ今回決シテ同國ヲ奪領セント  
欲スルノ意ナク只世人ヲシテ突國ハ土國ノ屬  
國ニ非ラス又半屬國ニモ非ス全ク獨立ノ一國

ナリトノヲ知ラシメ且同國ヲシテ佛政府ノ  
舉兵ハ正當ノ處置ナリト認識セシメ時宜ニ依  
リ新ニ約ヲ結ビ佛政府保護ノ下ニ置キ以テ永  
ク亞及耳人ト交争ノ根ヲ絶テ後日寧安ノ基礎  
ヲ定メ且同國在留外國人ノ利益ヲ保護セント  
欲スルニ過キサルヘシ故ニ佛政府ニ示テハ自  
ラ其所為ヲ以テ當ニ自國ノ利益ノ為ニスルノ  
ミナラス亦亞弗利洲ノ開化ヲ導クナリト思考  
セルハ疑ヲ容レズ茲ニ佛外務卿ヨリ突國事件  
關係ノ公書類ヲ取集メ諸國在留大使ニ贈リタ  
ル五月九日付訓令ノ畧ヲ掲ク  
我政府ノ突國ニ関シタル一ノ改畧ハ五十年間  
我亞及耳保護ノ為メ同國ニ對シ舉行セシ事跡

ニ就テ見ルヲ得ヘシ千八百三十年以來我政府  
ハ未タ嘗テ此目的ヲ等閑ニ付セシマラス不  
友ノ隣國ヨリ受ケントスル患害ヲ防禦スルノ  
権理ニ至テハ歐洲中國ヨリ異論ヲ容ル、者十  
カル可シ彼ハ則我好意ナルニ拘ラス不當ノ所  
為多ク殊ニ十年以來年ヲ逐テ增長セリ我政府  
ノ忍耐寛裕ナルハ世人皆所知ナルニ獨リ突國  
公ハ毫モ意ヲ注カズ不友ノ舉動多キハ甚タ遺  
憾ナリ若シ將來尚不好ノ情ヲ度セサルヘシト  
仮定セハ我政府今回ノ一舉ハ實ニ無用ニ非サ  
ルヲ信ス云々

